

誠心誠意、政策で。

活動報告書

外務副大臣

木原誠二

せいじ便り 74号

先般、「パラリンピックトイレ問題WT」の役員として、遠藤オリンピック担当大臣、稲田自民党政調会長などに申し入れを行いました。

2020年東京五輪・パラリンピックにむけては、バリアフリー法に則り徹底した点検、改善、整備が必要です。とりわけ既存施設の改修に時間を要する車椅子トイレの整備には、ただちに取り掛からなければなりません。

東京オリンピック・パラリンピックには、世界中から多くのパラリンピアンが参加し、仲間の応援や観戦のためにも多くの障害者の方が日本を訪れると想定されます。そのため、競技場や選手村などオリンピック・パラリンピックに直接関係する施設はIOC（国際オリンピック委員会）やIPC（国際パラリンピック委員会）の基準に基づいて、十分な数の車椅子トイレを含め、ユニバーサルデザインにより徹底したバリアフリー化が図られることとなります。

しかし、訪日される皆さんは、競技場や選手村を行き来するだけではありません。いったん競技場等を出たら、東京は、障害者に冷たい街だったということでは困ります。そこで、我々の議連では、複数の元日本代表パラリンピアンをお招きして検討を重ね、以下の点について、政

2020までに
車椅子トイレの整備を
障害者に優しい街づくりを



府・与党に申し入れを行いました。議連としても引き続き、全力で取り組んでいきます。

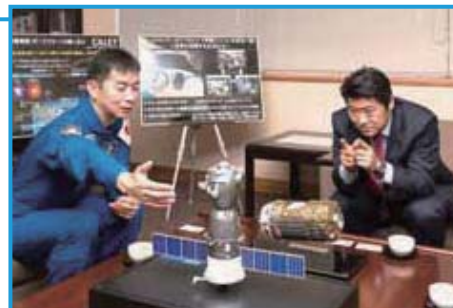
- 既存のホテル、駅、デパート、文化施設、都市公園や秋葉原のような大型連続ショッピング街等については国が整備要項を定め、都を始め関係機関・団体に強力に働きかけるとともに、必要に応じた予算処置を行うこと。
- 施設が整備されても健常者が頻繁に使用し、車椅子利用者が順番を待つような事態があつては本末転倒であり、広く国民に車椅子トイレの存在と利用マナーを周知すること。



稲田政調会長まで、パラリンピックトイレ問題WT役員として申し入れ

外務副大臣として、連日多くの会談等の日程をこなす

- 油井宇宙飛行士による表敬(平成28年3月2日)
- グランディ国連難民高等弁務官による表敬(平成28年3月1日)
- メスキータ・モザンビーク運輸通信大臣との会談(平成28年3月1日)
- 「第11回中国人の日本語作文コンクール」最優秀賞受賞者による表敬(平成28年2月26日)
- ジョナン・インドネシア運輸大臣及びワナンディ同国副大統領首席補佐官との会談(平成28年2月24日)
- ウィリアム・スウィング国際移住機関(IOM)事務局長による表敬(平成28年2月24日)
- ヘルダー・ロベス東ティモール財務副大臣との昼食会(平成28年2月22日)
- 国際原子力機関理事等による表敬(平成28年2月22日)
- 英国上院議員ランズリー卿との会談(平成28年2月19日)
- 豪州若手政治家による表敬(平成28年2月19日)
- 「国連安保理に関する戦略本部」第2回会合開催(平成28年2月18日)
- バイディネジャード・イラン外務省国際政治局長による表敬(平成28年2月15日)
- スシル・コイララ・ネパール前首相逝去に対する弔意の記帳(平成28年2月12日)
- ロク・ナイジェリア外務次官による表敬(平成28年2月10日)
- ンゴジ・オコンジョ=イウェアラ Gaviワクチンアラ イアンス理事長による表敬(平成28年2月8日)
- 安保理非常任理事国の駐日大使等の会談(北朝鮮情勢を巡る意見交換)(平成28年2月4日)
- Kult ビッチ世界エイズ・結核・マラリア対策基金理事会副議長による表敬(平成28年2月4日)
- 大西宇宙飛行士による表敬(平成28年2月4日)
- 「科学技術外交推進会議」第1回会合の開催(結果)(平成28年2月3日)
- バ・セネガル共和国大統領府首席外交補佐官との昼食会(平成28年2月3日)
- アフリカ連合閣僚執行理事会出席(平成28年1月26日)
- カレ国連フィールド支援担当事務次長との会談(平成28年1月20日)
- アシ・コートジボワール経済インフラ大臣との会談(平成28年1月20日)
- ノルブ・ワンチュク・ブータン経済大臣による表敬(平成28年1月19日)
- コナレAU南スーダン問題上級代表との昼食会(平成28年1月12日)
- シンクレア駐日ニュージーランド大使による表敬(平成28年1月12日)
- 木原外務副大臣のラオス建国40周年記念レセプションへの出席(平成27年12月8日)
- 木原外務副大臣とイグナシウス・ジョナン・インドネシア運輸大臣との昼食会(平成27年12月4日)
- 木原外務副大臣とゴルジェル・アンゴラ経済大臣との会談(平成27年12月4日)
- 木原外務副大臣とニャン・ウイン・ミャンマー国民民主連盟中央執行委員会メンバー兼スポークスマンとの昼食会(平成27年12月1日)
- グテーレス国連難民高等弁務官による木原外務副大臣表敬(平成27年11月25日)
- ファルク・アーミル駐日パキスタン・イスラム共和国大使による木原外務副大臣表敬(平成27年11月24日)
- 木原外務副大臣とチョードリー・バングラデシュ国会議員との会談(平成27年11月19日)
- 木原外務副大臣とカマル・バングラデシュ計画大臣との会談(平成27年11月19日)
- 青年海外協力隊発足50周年記念式典(平成27年11月17日)
- クオン駐日ベトナム大使による木原外務副大臣表敬(平成27年11月16日)
- ラジャ・モハン、オブザーバー・リサーチ・ファウンデーション特別フェローによる木原外務副大臣表敬(平成27年11月16日)
- フランス・パリ市内でのテロ事件を受けた在京フランス大使館主催追悼セレモニー(平成27年11月15日)
- 木原外務副大臣とサム・ランシー・カンボジア救国党党首との会談(平成27年11月11日)
- 木原外務副大臣とアディ・リベリア通商産業大臣との会談(平成27年11月11日)





PROFILE

外務副大臣、前外務大臣政務官。財政・金融全般、外交政策、社会保障・行革、都市農業など幅広く活動を展開。1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

地元事務所

〒189-0013 東村山市栄町2-28-2 久米川武蔵ビル1階
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館915号室
TEL 03-3508-7169 FAX 03-3508-3719

Facebook <https://www.facebook.com/seiji.kihara>
twitter ID http://twitter.com/kihara_seiji

<http://www.kiharaseiji.com>
 発行：木原誠二後援会 東村山市栄町2-28-2 久米川武蔵ビル1階

国連安保理改革に向けて

常任理事国入りを目指す

外務副大臣に就任して早くも半年が過ぎようとしています。目下の私の最大のテーマが、国連の安全保障理事会(国連安保理)の改革です。そして、この歴史的改革のため、対アフリカ外交を活発化しています。

国連安保理といえば、最近では、3月3日、北朝鮮に対する制裁決議を採択したことが記憶に新しいと思いますが、国際社会の平和と安全そして発展に強い影響力を持つ組織です。その安保理は、現在は拒否権を持つ5つの常任理事国(米、中、露、英、仏)と任期2年で選挙によって選ばれる10の非常任理事国の15か国によって構成されています。

日本は今年1月から非常任理事国に選出されております。したがって、今回の北朝鮮制裁決議の際には、運よく安保理メンバーとして機動的な対応が取れましたが、仮に、常任理事国となれば、より影響力が発揮可能となります。

日本が常任理事国となる、夢のような話に聞こえるかも知れませんが、私は、「平和国家」日本が常任理事国に入ること、国際社会により良い影響を与えることが可能になると考えてい

ます。しかし、国連安保理改革は、単に日本が常任理事国に入るための「我田引水」の改革であってはなりません。



国連安保理に関する戦略本部の副本部長として初会合に参加

創設70周年、
加盟60周年の今こそ

今年、国連が創設されて70周年の節目の年に当たります。この間、アジアが成長し、アフリカ、中南米が発展したにもかかわらず、安保理は拒否権を持つ5か国の常任理事国に事実上牛耳られてきたと言つていいと思います。

ところが、国連安保理で議論する課題の8割は、常任理事国を出していないアフリカそして中東の問題です。「代表なくして課税なし」とよく言いますが、「代表なくして自分達のことを決めてくれるな」、国連安保理については、この70年間の世界の発展を反映した時代にあった代表性の向上が不可欠になっています。

そこで、日本は、同じく常任理事国入りを目指すインド、ドイツ、ブラジルとともに、常任理事国を新たに6か国、非常任理事国を新たに4、5か国増やす提案を行い、国連安保理が国際社会の現実をより正確に、適切に反映することを目指しています。

日本は常任理事国にふさわしい国

そして、時代にあった代表性の向上と言う面で見れば、日本はその最右翼にあると言えます。国連の運営は、加盟する各国が支払う分担金で成り立っています。日本は長年に渡り、アメリカに次いで世界で2番目の額を支払ってきま

安保理非常任理事国各国の駐日大使と北朝鮮情勢について意見交換



した。また、既述のとおり、安保理は常任理事国5か国と、任期が2年の非常任理事国10か国の、あわせて15か国で構成されますが、日本はこれまで世界最多の11回、非常任理事国に選ばれています。

日本が常任理事国に値する理由は、これだけではありません。日本は戦後、国際社会に復帰し、平和国家として、経済を復興し、国民の暮らしを豊かにすることに専念して来ました。決して覇権を求めず、再び軍事大国化もせず、ア

ジアやアフリカに対しては、ODAを通じて援助を続けてきました。学校を作り、橋をかけ、人材育成に励み、技術移転を行い、途上国に寄り添い、途上国と手を携えて発展を描いてきました。いまやアジアが世界の成長センターと呼ばれるに至ったことは、日本の大いなる誇りであります。

この日本の経験や、戦後築いて来た価値は、必ずや世界が共有できる価値として、国連の場にはふさわしいものと考えています。国際社会の中で覇権を巡る争いや宗教対立が激しさを増す中で、日本が果たす平和と安定、繁栄にむけた役割は、国際社会で意義あるものとなります。

ド・デュンパー?

国連安保理改革には国連憲章の改正が必要であり、国連憲章の改正には国連加盟国の3分の2の賛成が必要になります。具体的には192か国の3分の2、すなわち130か国近い賛成が必要になるわけです。現在、日本が国連改革で足並みを揃えているG4というグループ(ドイツ、インド、ブラジル、日本)には60か国近い支持があり、54か国を有するアフリカと連携ができれば、改正が現実味を帯びてきます。アフリカは、この70年間最も歴史的不正義を感じてきた地域であり、自らの代表としての常任理事国を強く求めています。折しも、今年、日本がアフリカと共催するアフリカ開発

会議(TICAD)の第6回会議が初めてアフリカで開催される年であり、引き続き、アフリカの国々と連携できるよう引き続きアフリカ外交を積極的に展開していきます。

国連安保理改革は、戦後の国際社会の在り様を大きく変えるものであり、実現は決して容易ではありませんが、一つでも一つでも改革に向けた爪痕を残せるよう、全力投球していきます。



マクドゥアル・ガイ・ガンビア
外務大臣との会談



タンザニア マグフリ大統領と
意見交換